

通夜での喪主の挨拶例

本日は、ご多用中にもかかわらず、故人のためにわざわざ御通夜の御焼香をたまわりまして、まことにありがとうございます。

故人も永い闘病生活からこうした形で解放されまして、家にかえることができました。お集りいただきましたみなさまにこのようにあたたかく見守られまして、さみしい中にも喜んでいてくれることと思います。

別室に用意いたしました粗茶など召し上りながら、故人のありし日のことなど、お聞かせいただけますと存じます。

なお、明日の葬儀・告別式は〇〇時～〇〇時となっておりますので、よろしくお願いいたします。今晚は誠にありがとうございました。

出棺の際の挨拶

出棺の挨拶には、つぎの3ポイントを含める。

①会葬していただいたお礼 ②故人生前のご厚誼(こうぎ)への感謝 ③今後遺族に対する故人在世中と変わらないご交誼(こうぎ)のお願い。

●遺族の挨拶例

遺族を代表いたしまして、皆さまにひとこと、ごあいさつを申し上げます。

本日はご多用中にもかかわらず、ご会葬、ご焼香を賜わり、おかげをもちまして葬儀・告別式もとどこおりなく相済み、これより出棺の運びとなりました。

生前は一方ならぬご厚誼にあずかり、いまここに最後のお見送りまでいただきまして、故人もさぞかし皆さまのご厚誼を感謝いたしておることと存じます。

なお、残されました母と私どもきょうだいに對しましても今後とも亡父生前と変わりなきご指導ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

●親族代表の挨拶例《その1》

一言ご挨拶申し上げます。私は故人の弟にあたりますものでございますが、喪主が年少の身でありますため、代わりましてお礼を申し述べさせていただきます。

本日は、皆様ご多用中にもかかわらず、わざわざご会葬のうえ、最後のお見送りまでいただきまして、まことにありがとうございました。故人の霊もさぞかし感謝いたしておることと存じます。

故人、生前は一方(ひとかた)ならずご厚誼にあずかり、また病氣中はお手あつにお見舞いもいただき深く感謝いたします。

また本日の告別式も、かく盛大に営むことができましたのも、ひとえに皆さまのお力添えによるものとお礼のことばもございません。

遺族に對しましても、故人と同じようにご交際くださいますよう伏してお願い申し上げます。

はなはだ簡単ではございますが、遺族を代表いたしましてお礼のご挨拶をさせていただきます。お見送りまことにありが

とうございました。

●親族代表の挨拶例《その2》

本日は、遠路またご多忙中のところ故人のためにご会葬くださいまして、誠にありがとうございました。

省みまするに故人、生前中は皆様より格別な、ご厚情ご愛顧を頂きまして誠にありがとうございました。また発病後は、ご懇切なお見舞いを賜り私共一同もあらん限りの看護を致しましたが、天寿の致す処でございます。〇〇歳を一期として永眠致しました。

本日、斯様(かよう)に盛大なお見送りを受けまして故人もさぞ満足している事と存じます。

重ねてのお願いとなりますが、残る遺族一同にも故人同様のご厚情を賜ります様、ひとえにお願い申し上げます。

誠に粗辞であります但遺族感激の胸中を皆様へ披露(ひれき)してお礼の挨拶と致します。

●葬儀委員長の挨拶例

本日は、弊社取締役社長〇〇〇〇儀の葬儀・告別式を執行するにあたり、ご多用のところかくも多数のご参列をたまわりまして、まことにありがたく、ご遺族ならびにご親戚一同に代わりましてあつく御礼申し上げます。

故人もさぞかし皆さまのご厚情に感謝いたしておることと存じます。

故人は、努力力行の生涯をおくり、(一代にしてよく〇〇株式会社を興し、)私たち社員を指導督励(とくれい)して今日の業績を築きあげました。

業界における信頼もあつく、ことに私たち社員にとっては親ともたのむ存在でありましたが、いま突然、幽明(ゆうめい)をことされまして、暗夜に灯を失った思いをいたします。

しかし、このときこそ私ども社員一同、日ごろの社長の教訓を生かすべきときであると信じ、一致協力、全社員結束して故人の遺志を体し、遺業を守って奮起精勵いたし、もって故人の霊を安らかならしめんとかく決意いたしております。

何とぞ故人亡きあともご遺族ならびに当社に對して生前と同様にご厚誼、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日は、皆様のおかげをもちまして、つつがなく葬儀・告別式を終えることができました。これより遺族・親族ならびに社員代表にて火葬場へ赴きたいと思っております。

本日はご遠路のところ、ご会葬くださいまして誠にありがとうございました。あつく御礼申し上げます。

はなはだ簡単ではございますが、一言ご挨拶申し上げます。

一口メモ

“御霊前”は、仏式、キリスト教式を問わず最も一般的に金品のとき、用いられます。ただし、仏式以外には蓮の模様のないものを用います。ただし、四十九日の前日までとします。